

第7回 軽井沢スキーバス事故対策フォローアップ会議

参考資料(貸切バスによる交通事故の現況について)

令和4年10月12日

- 事業用自動車による事故を削減するため、関係者（行政・事業者・利用者）が講ずべき施策を明確化・可視化。
- 策定にあたっては、**新型コロナウイルス感染症や激甚化・頻発化する災害等**、事業環境の変化を考慮。（令和3年3月30日公表）

ポイント

- 依然として発生する**飲酒運転、健康起因事故**等への対策、**先進技術の開発・普及**を踏まえた対策、**超高齢社会におけるユニバーサルサービス連携強化**を踏まえた事故防止対策
- 新型コロナウイルス感染症拡大、激甚化・頻発化する災害等に対し、**新たな日常**への移行に伴う事業環境変化における安全対策
- **重傷者数に対する削減目標**とともに、業態毎に一層の事故削減を図るため、**各業態の特徴的な事故に対する削減目標**を設定

【重点施策】

1. 「新たな日常」における安全・安心な輸送サービスの実現

- ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う運送労働環境の変化と付帯作業の増加への対応
- ・激甚化・頻発化する災害への対応 等

2. 抜本的対策による飲酒運転、迷惑運転等悪質な法令違反の根絶

- ・飲酒運転事故件数の近年の下げ止まりへの対応
- ・社会的関心の高まる「あおり運転」への対応 等

3. ICT、自動運転等新技術の開発・普及推進

- ・ICTを活用した高度な運行管理の実現
- ・無人自動運転サービスに向けた安全確保 等

4. 超高齢社会におけるユニバーサルサービス連携強化を踏まえた事故の防止対策

- ・依然として多発する乗合バスの車内事故への対応
- ・高齢運転者事故への対応 等

5. 原因分析に基づく事故防止対策の立案と関係者の連携による安全体質の強化

- ・各業態の特徴的な事故への対応
- ・健康に起因する事故の増加への対応 等

6. 道路交通環境の整備

- ・高速道路から生活道路に至る道路ネットワークを体系的に整備し、道路の適切な機能分化を推進する 等

【事故削減目標】

<全体目標>

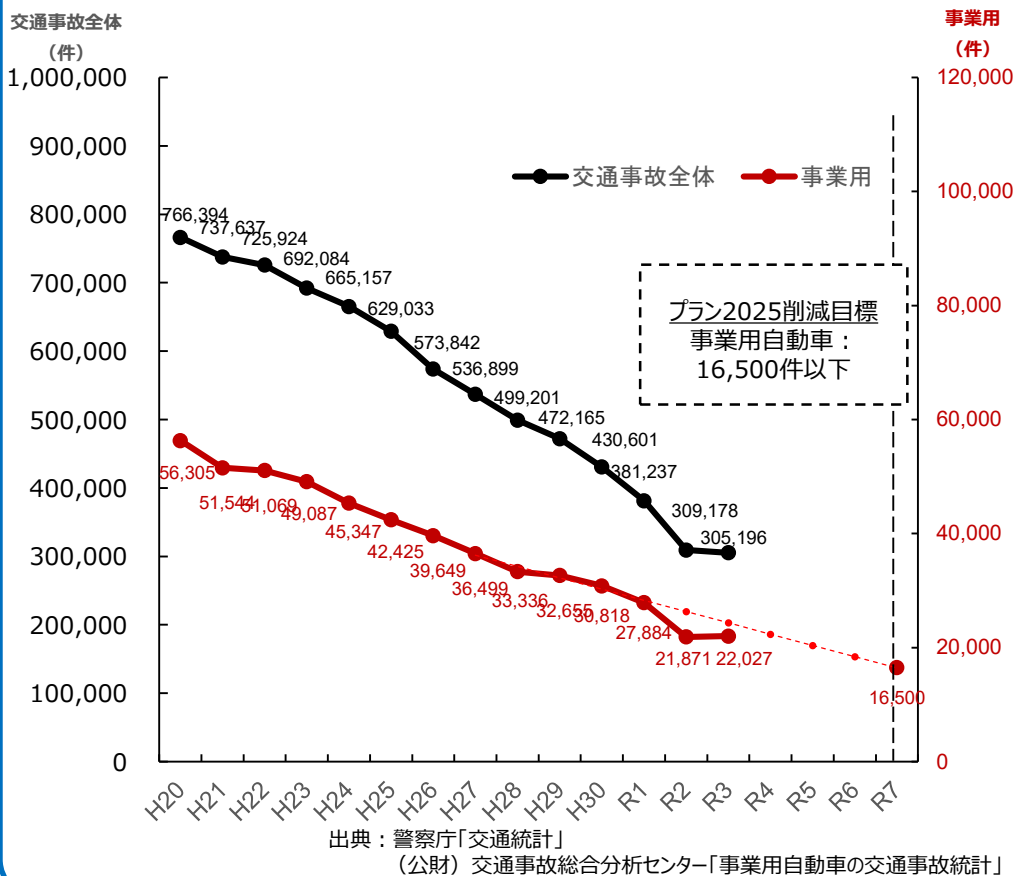
- ① 24時間**死者数225人以下**、バス、タクシーの**乗客死者数ゼロ**
- ② **重傷者数2,120人以下**
- ③ **人身事故件数16,500件以下**
- ④ **飲酒運転ゼロ**

<各業態の個別目標>

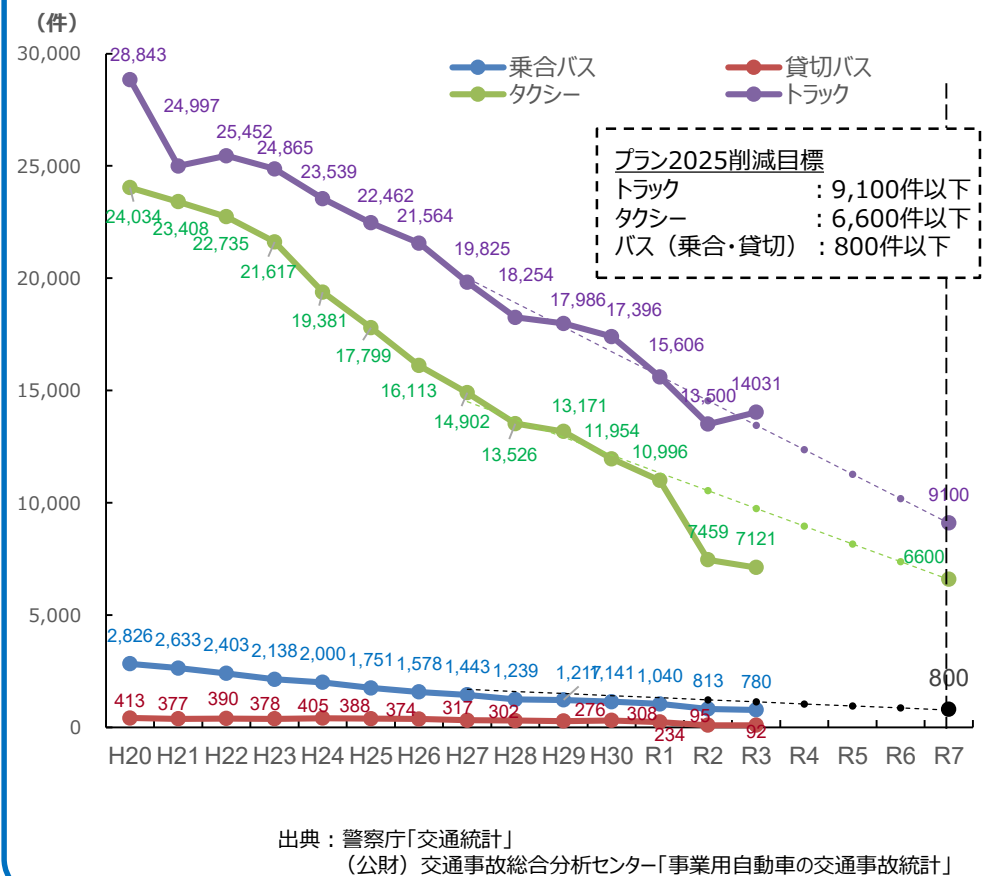
- 【乗合バス】 **車内事故件数85件以下**
- 【貸切バス】 **乗客負傷事故件数20件以下**
- 【タクシー】 **出会い頭衝突事故件数950件以下**
- 【トラック】 **追突事故件数3,350件以下**

- 令和3年中に発生した交通事故全体の件数（人身事故件数）は**305,196**件であり、そのうち、事業用自動車の交通事故件数※は**22,027**件であった。 ※ 事業用自動車が第一当事者である人身事故件数
- 各モードの交通事故件数は、**トラックを除いたモードにおいて前年に比べ減少**している。

交通事故全体と事業用自動車の交通事故の推移



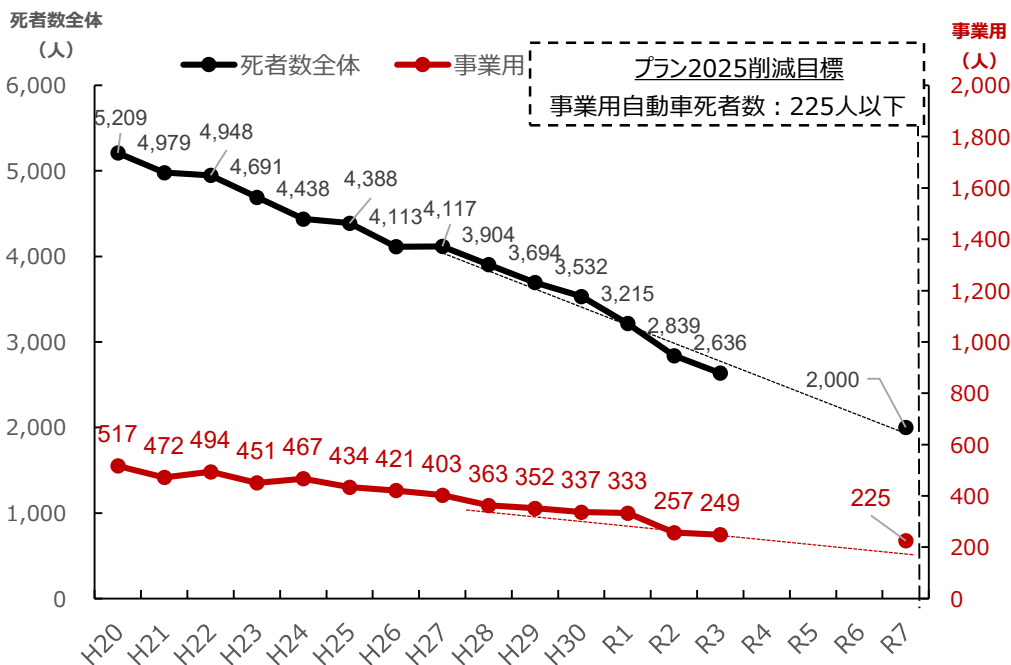
各モードの交通事故の推移



- 令和3年中に発生した交通事故全体の死者数は**2,636**人であり、そのうち、事業用自動車の交通事故死者数は**249**人（前年比8人減）であった。
- 令和3年の各モードの交通事故死者数は、**タクシーは減少、トラック・乗合バス・貸切バスは前年と同水準である。**

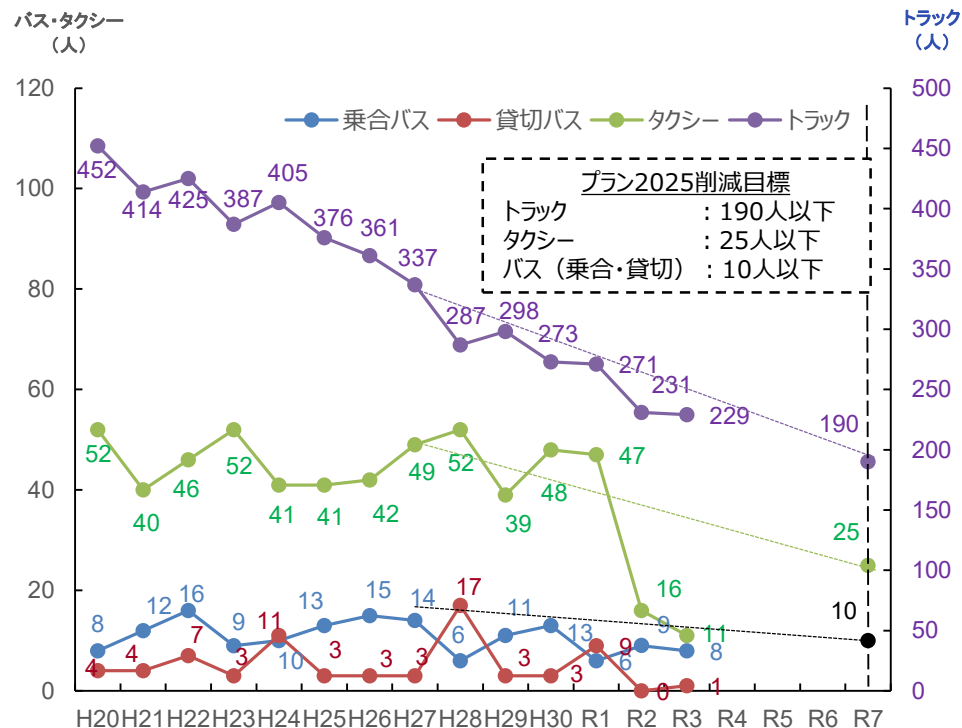
※貸切バスは2012年、2016年の数値が、それぞれ、関越道高速ツアーバス事故、軽井沢スキーバス事故により大きくなっている。

交通事故全体と事業用自動車の交通事故死者数の推移



出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

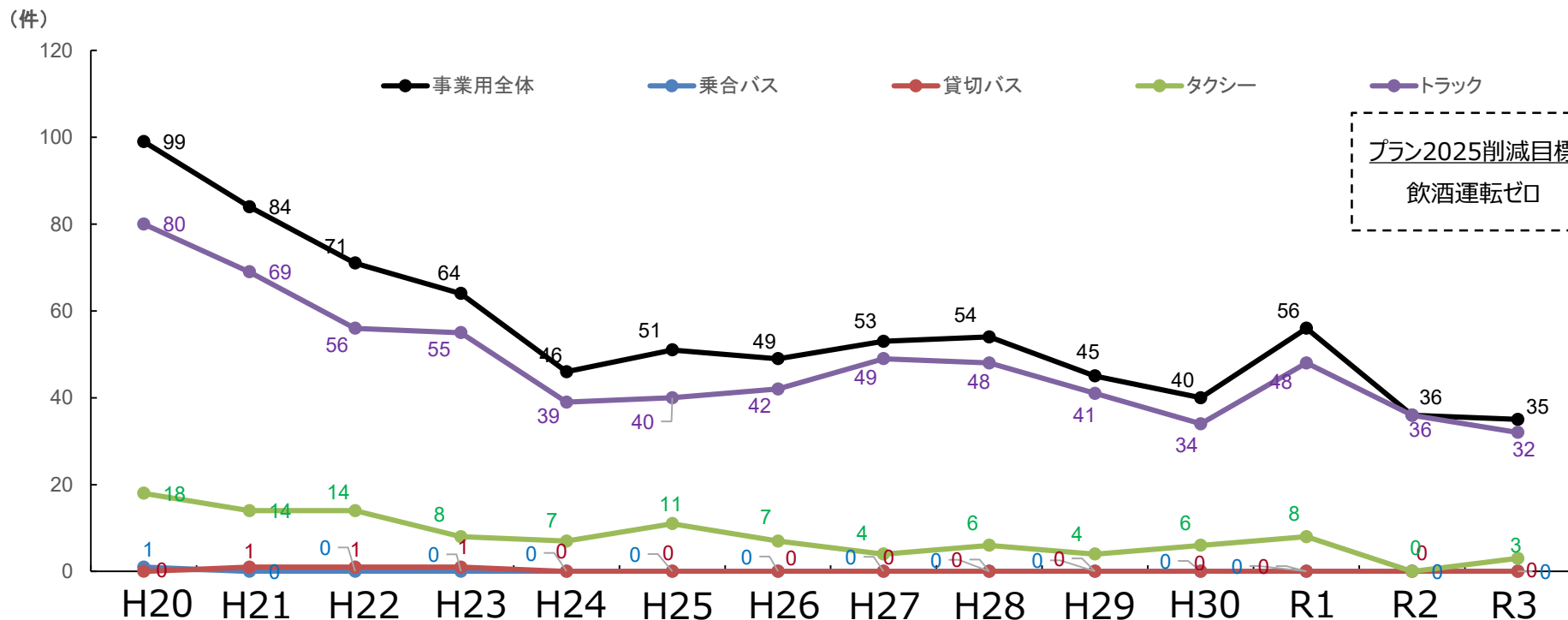
各モードの交通事故死者数の推移



出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

- 事業用自動車による飲酒運転事故件数は、平成24年以降横ばいの状況が続いている。
- 飲酒運転の根絶に向け、引き続き飲酒運転を未然に防止するためのルール作り等の取組が必要。

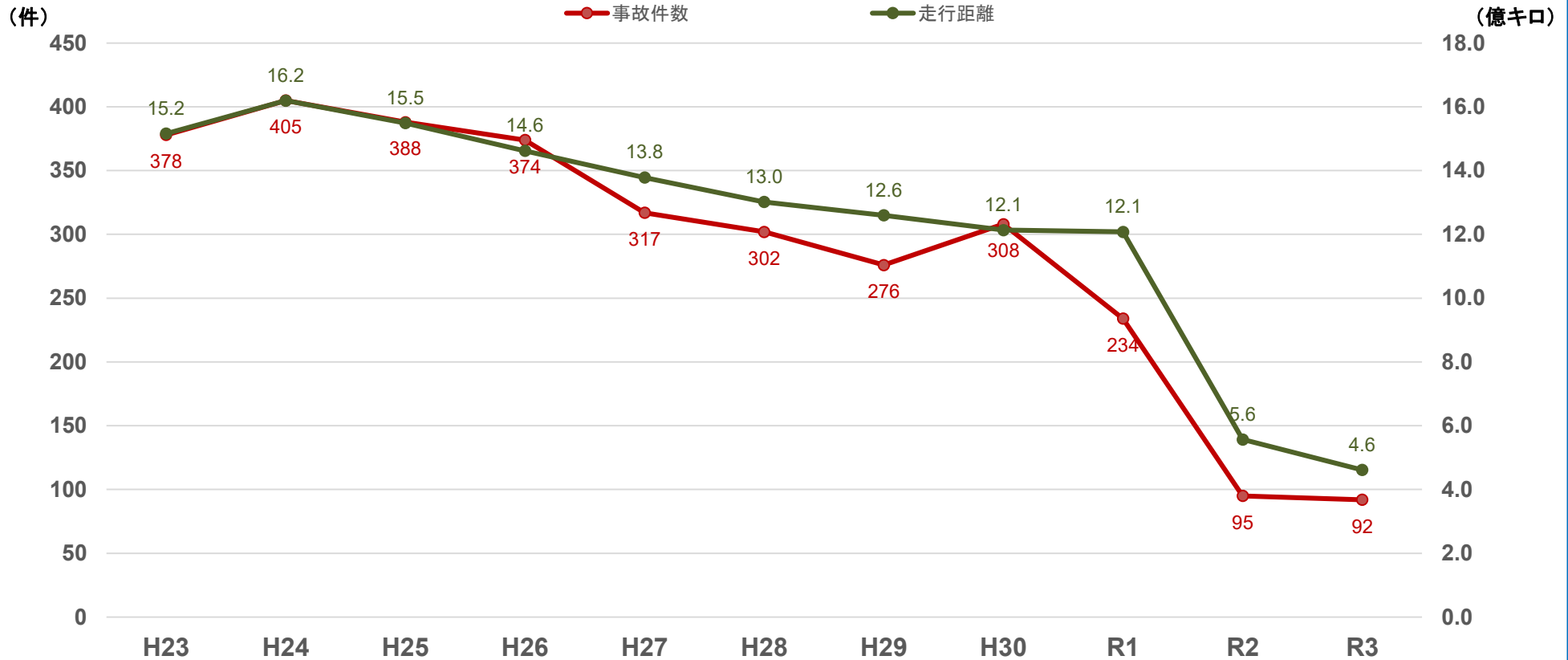
飲酒運転による事業用自動車の交通事故



出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

○貸切バスの走行距離や交通事故件数は、令和2年以降、新型コロナウイルス感染症の影響で大きく減少している。

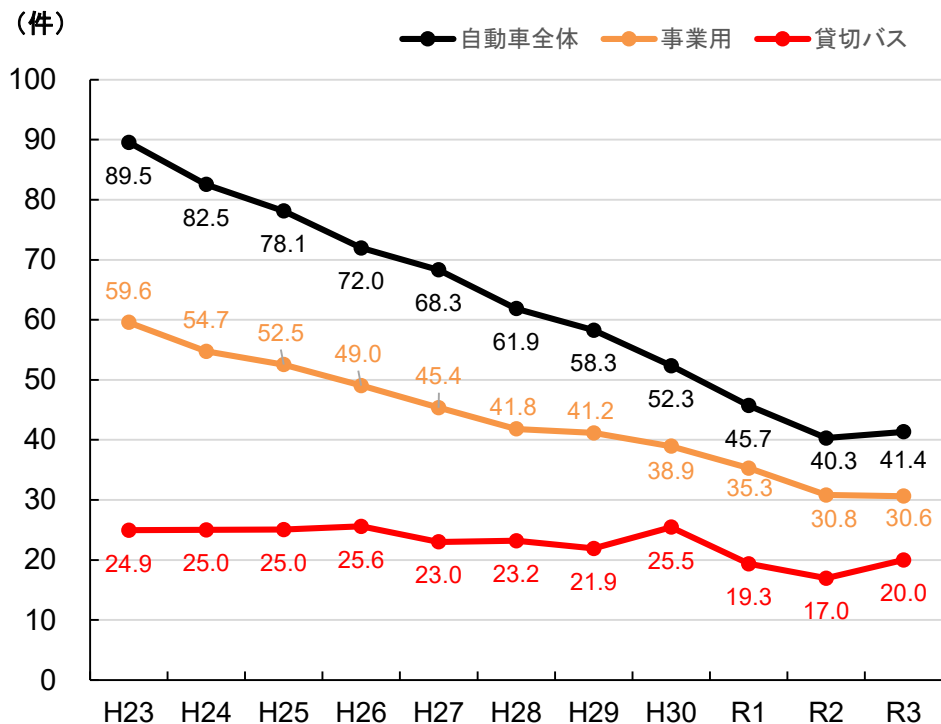
貸切バスの走行距離と交通事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」
(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

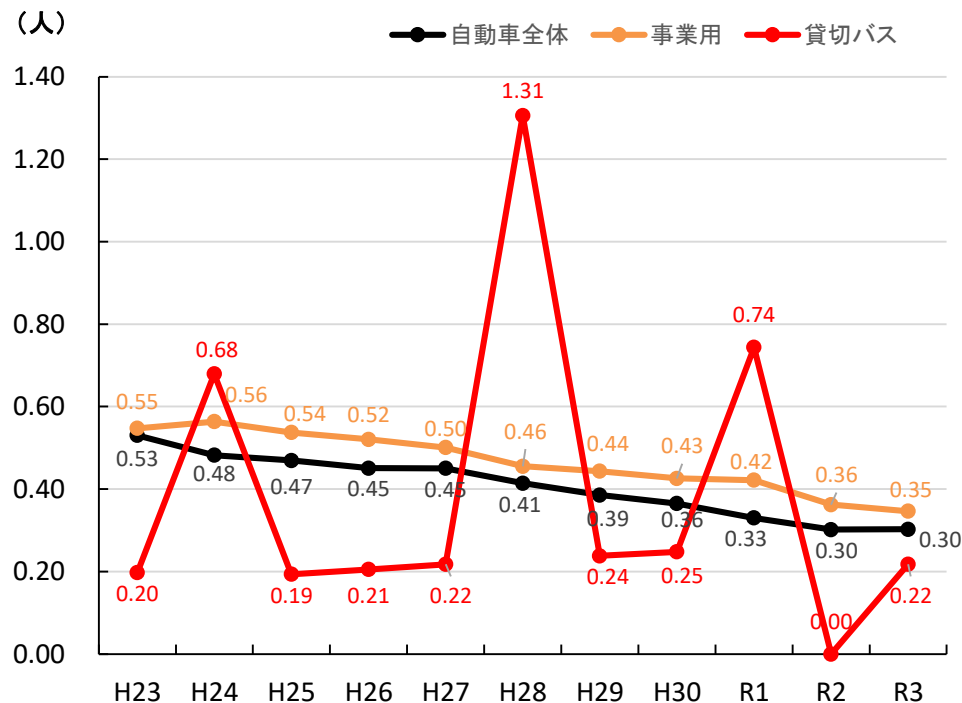
- 走行距離1億キロあたりの交通事故の件数は減少傾向で推移しているが、近年は横ばい傾向にある。
- 走行距離1億キロあたりの交通事故死者数は長期的には減少傾向で推移している。
- 貸切バスの交通事故件数は自動車全体及び事業用全体よりも低い水準で推移しており、交通事故死者数についても変動幅はあるものの、概ね自動車全体及び事業用全体よりも低い水準となっている。

走行距離1億キロあたりの交通事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」
 (公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

走行距離1億キロあたりの交通事故死者数の推移

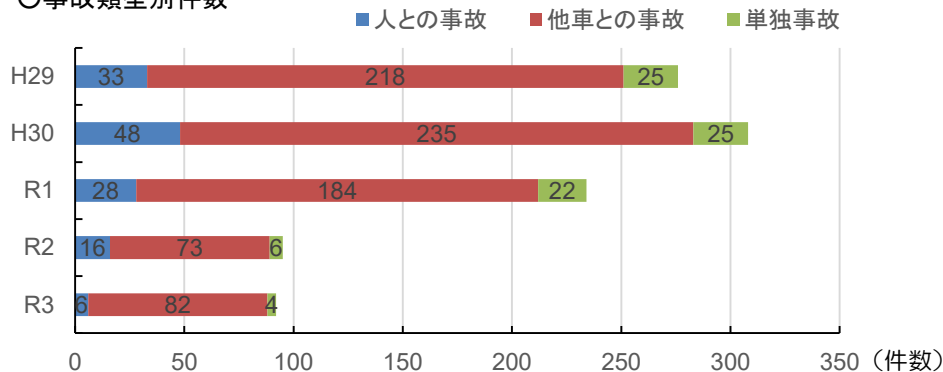


出典：警察庁「交通統計」
 (公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

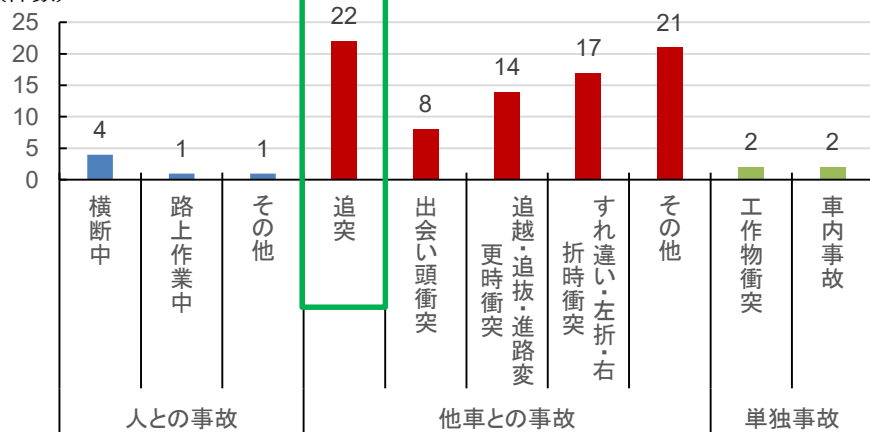
- 交通事故全体の件数は減少傾向を示しており、令和3年は**92件（直近5年間で最少）**であった。事故を類型化すると、「追突事故」が全体の約2割にあたる22件発生しており、最多であった。
- 死亡事故の件数は近年1ケタ台で推移しており、令和3年は**1件**であり、右折時における他車との衝突事故により発生したものの。

貸切バスの事故類型

○事故類型別件数

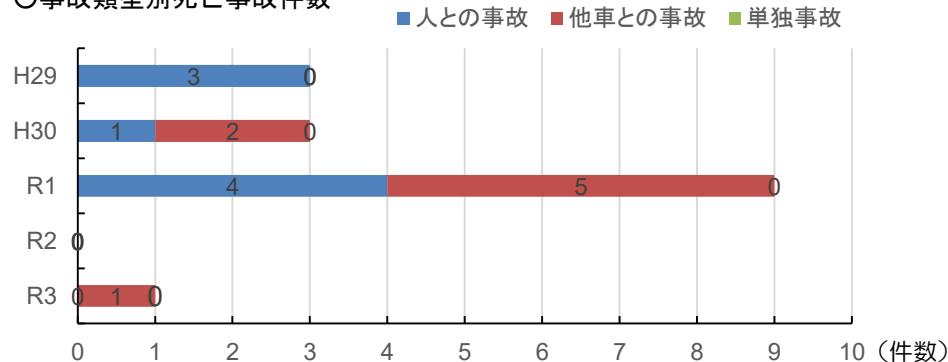


○令和3年事故類型別事故件数の内訳 (件数)



貸切バスの死亡事故類型

○事故類型別死亡事故件数



○令和3年事故類型別死亡事故件数の内訳

※令和3年は1件であり、右折時における他車との衝突事故により発生したものの。

出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」